

講師プロフィール（順不同）

※講師右下の番号は、中面時間割の講座番号に対応しています。

武田真一【たけだ・しんいち】

河北新報社論説委員会副委員長

震災時は報道部長として震災報道の陣頭指揮を執った。以降も「いのちと地域を守る」キャンペーンを展開、巡回ワークショップ「むすび塾」と津波避難訓練「カケアガレ！日本」を連動して開くなど、「津波で犠牲を出さない」誓いを地域や全国に広めている。

5

見上一幸【みかみ・かずゆき】

宮城教育大学学長

専門は生物学。宮城教育大学環境教育実践研究センター長、同大附属小学校校長などを歴任し、平成24年4月より現職。震災後学長に就任、抱負として、被災地の学習を支え、地域貢献に取り組むことを掲げた。

5

佐藤静【さとう・しずか】

宮城教育大学教職大学院教授

専門は臨床心理学。学校における心理支援、適応指導としての教育相談、臨床心理学療法における心の支援全般について研究。震災後の心の支援について早くから提言し、時間の経過に沿った支援の仕組みづくりにも取り組んでいる。

6

阿部清人【あべ・きよと】

せんだい泉エフエム放送株式会社取締役事業部長／宮城県防災指導員

3.11は深夜までラジオに出演、防災士として被災者に「共助」を呼びかけた。学校と社会の接点づくりの必要性を感じ、子どもたちの学習に関与。震災前から取り組んでいたサイエンスショーに、震災後は防災の内容を盛り込んだ「防サイエンスショー」を考案。

4・12・13

田端健人【たばた・たけと】

宮城教育大学教授
同大教育復興支援センター兼務教員

震災後は、被災地の学校に焦点を当て、調査研究を進めている。著書に、津波被災校の教職員へのインタビューをまとめた『学校を災害が襲うとき―教師たちの3.11―』。災害時の教職員支援のための新しい組織づくりを始動させている。

1

新妻英敏【にいつま・ひでとし】

仙台市教育局学校教育
学びの連携推進室 主任指導主事

平成25年度の1年間、神戸市教育委員会事務局指導課指導主事として出向、東日本大震災の報告や復旧・復興の実情を伝えながら、先行経験地としての兵庫県・神戸市の取り組みを学んだ。平成26年4月から現職。教育行政の立場から学校支援に取り組んでいる。

11

今野隆【こんの・たかし】

仙台市教育局学校教育指導課
主任指導主事

仙台市立中学校教諭、社会科担当、教育指導課指導主事を経て、「新たな学校防災教育」モデル校である長町中学校教頭に就任。中学校区および地域と連携した学校防災教育の充実に尽力した。平成26年4月から現職。

8

渡辺英明【わたなべ・ひであき】

宮城県亶理町立荒浜小学校
主幹教諭

防災担当者として、亶理町の防災教育を主導し、町総合防災訓練や「防災キャンプ in 荒浜小学校」の中心的な立場として計画から実践までを行う。平成24年4月より現職。

7

松川忠孝【まつかわ・ただたか】

宮城県女川町立女川小学校
教諭（教務主任）

平成23年4月より女川町に教員として勤務。女川町の小・中学校の代表として、防災教育および防災全体計画の立案を行う。それにもとづき授業実践を進め、平成24年度石巻教育研究会で研究発表を行った。

7

佐藤正幸【さとう・まさゆき】

宮城県南三陸町立志津川中学校
校長

震災時は岩沼市立玉浦中学校校長。同年4月、宮城県志津川自然の家の所長に就任、被災者の支援を行った。平成25年度より現職。甚大な被害を受けた地域の中学校の校長として強いリーダーシップを発揮し、教職員とともに復興に向けた教育実践を展開している。

7

柳津英敬【やなつ・ひでたか】

仙台市総務局
国連防災世界会議準備担当課長

半年後に迫った第3回国連防災世界会議の準備担当としての重責を担う。仙台市で開催される国際会議としては史上空前の規模となる会議を成功させるべく、市民の積極的な参加を呼びかけている。本公開集中講座を主催する宮城教育大学卒。

13

野澤令照【のざわ・よしてる】

宮城教育大学教育復興支援センター
副センター長

仙台市立寺岡小学校長を最後に退職後、現職。元仙台市教育局次長。一貫して学校教育と社会教育の融合を目指してきた。その経験と知見を生かし、地域防災と生き方教育としての防災教育の推進に力を注いでいる。

OP・13

瀬尾和大【せお・かずお】

宮城教育大学教育復興支援センター
副センター長・特任教授

専門は工学地震学。民間技術研究所の勤務を経て、大学教員に。現在、東京工業大学名誉教授。近年は社会地震学を構築。聞き取り調査、実地踏査をもとに「体験談に基づく災害時の地域特性」など、災害予防の観点から研究を進めている。

9

広瀬剛史【ひろせ・つよし】

一般社団法人 ReRoots（リルーツ）
代表

仙台市七郷地区にあるボランティアハウスを拠点に、全国のボランティアと一緒に、津波で被災した沿岸地域の農業再生と地域おこしを目指している。ボランティアの中心を担う大学生に対し、活動を通じたチームづくりとリーダー養成など、人材育成にも定評がある。

3

中井滋【なかい・しげる】

宮城教育大学教育復興支援センター
センター長

専門は特別支援教育。宮教大附属養護学校（現附属特別支援学校）校長を務めたほか、中央教育審議会特別支援教育専門部会委員や日本育療学会会長を歴任。平成20年～学務担当副学長、24年～連携担当理事・副学長、教育復興支援センター長兼務。

CL

公開集中講座 2014年9月19日(金)-21日(日) AER(アエル)アトリウム2階 入場無料・事前申込不要

国内外から伝えられる気象災害、地震被害……

私たちは毎日のように、地球上のどこかの災害報道を見聞きしています。被害をいかに軽減するか、災害に対する耐久力や回復力を有する社会をいかに構築していくかが世界共通の課題となっています。

東日本大震災は、その規模の大きさ、被害の甚大さ、加えて原子力発電所の被災で、世界中に衝撃を与えました。同時に、被災地東北の人びとの助け合いの精神や規範意識の高い行動が、映像を通してある種の感動をもって受け止められたことも、私たちは自負してよいのではないのでしょうか。それは、東北という地域が培ってきた文化と教育の結果であり、世界中の人びとが被災地の復興に注目し、来年3月、仙台市で開催される国連防災世界会議に期待しているゆえんであると考えます。

宮城教育大学教育復興支援センターは、人材育成という大学の使命を通して、中・長期的な視点に立った教育復興に向け、さまざまな取り組みをしています。その核となる活動が、学生ボランティアによる被災地での学習支援であると同時に、文部科学省より委託された社会教育としての「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」であります。

東日本大震災から私たちは計り知れない犠牲と引き換えに、多くのことを学びました。記憶の風化が懸念されるいまこそ、復興についてさまざまな角度からともに考え、市民一人ひとりが確かな情報と知識をもとに自分ごととして行動していく姿勢が求められます。AER（アエル）という市民に開かれた場での公開講座を、昨年に引き続き企画しました。次代への継承、東北だからこそ成し遂げられる復興について考え、世界からの注目に応えられる学びの機会にしたいと思います。市民の皆さま、先生方、学生の皆さんなど、多くの方々のお越しをお待ちいたしております。



主催＝国立大学法人宮城教育大学 学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業
後援(予定)＝第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会／宮城県教育委員会／仙台市教育局／仙台市PTA協議会／河北新報社／読売新聞東北総局／毎日新聞仙台支局／朝日新聞仙台総局 問い合わせ先＝宮城教育大学教育復興支援センター ☎022-214-3296

公開集中講座 再(また)アエルで学ぼう 宮教大防災3days 時間割

9月19日(金)

14:00
~
14:10

オープニングセレモニー

野澤令照・宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長

OP

14:10
~
15:10

災害後3年6か月の学校現場と教員支援

田端健人・宮城教育大学 教授

震災後3年6か月を経た現在、被災地の学校はどのような状況にあるでしょうか。児童生徒の学習や生活環境は？ 教員支援のあり方を、被災した学校での聞き取り調査から探り、学校の現状と教員支援について考えます。

休憩 5分

15:15
~
15:45

宮教大学生による学習支援ボランティア活動の報告

宮城教育大学 学生ボランティア協力員

夏休み期間中や休日などを利用し、被災地の子どもたちに「笑顔を取り戻す」ために、「できる人が、できる時間に、できることを」を基本に行っている学習支援。学生にとっても、能力・指導技術の向上と自己成長につながっている活動を紹介しします。

休憩 15分

16:00
~
17:00

4年目となる農業復興支援の取り組み

広瀬剛史・一般社団法人 ReRoots (リルーツ) 代表

農業とまちの再生を目指す ReRoots の取り組みとそれを実現するための大学生たちのチームマネジメントについて紹介します。活動の「これまで」と「これから」について、実情をとらえながらお話しします。

休憩 15分

17:15
~
17:45

防サイエンスショー「メカニズム編」

阿部清人・fmいずみアナウンサー/防災士

メカニズム編では、「地震の揺れの違いとは」「液化化現象」の2点を、視覚的にわかりやすく実験します。地震の揺れの違いが建物にどのように影響するのか、また、液化化現象が起こるメカニズムを目で確かめます。

休憩 15分

18:00
~
19:30

【対談】東日本大震災の教訓を未来につなぐために

武田真一・河北新報社論説委員会副委員長/見上一幸・宮城教育大学学長
大震災から4年目を迎えたいま、被災地以外の地域では、記憶の風化が懸念されています。いのちと地域を守り、子どもたちの未来を保障し、私たちの経験を次代に継承していくためには、いま何をすべきなのでしょう。社会的に大きな影響力をもつそれぞれの立場から、現在の思いと今後の取り組みについて語り合います。

9月20日(土)

11:00
~
12:00

災害後の生活と心のセーフティネット

佐藤静・宮城教育大学教職大学院 教授

被災後の生活の長い道のりではさまざまな心の問題が起こります。今回の講座では、心を支え合いながら暮らすためにはどうすればよいかを中心に、身近な心の支援について考えます。

昼食・休憩 1時間

13:00
~
14:45

東日本大震災から3年を経た被災地の現状と課題

渡辺英明・亶理町立荒浜小学校 主幹教諭
松川忠孝・女川町立女川小学校 教諭(教務主任)
佐藤正幸・南三陸町立志津川中学校 校長

震災後3年を経た、被災地の学校はどのような状況にあるでしょうか。仮設校舎から本校舎に戻って喜んでいる学校がある反面、スクールバス運行による教員の負担感や、保護者の経済状況の変化による児童生徒の新たな心のケアなど、被災地の学校が抱える課題などについて3つの小・中学校が報告します。参会の皆さんと情報を共有し、一緒に考えます。

休憩 15分

15:00
~
16:00

新たな防災教育の展開

今野隆・仙台市教育局学校教育部教育指導課 主任指導主事

東日本大震災後、仙台市では、自分の命を守り安全を確保する「自助の力」、災害後の対応や地域の復興に他の人と協力して参画する「共助の力」を育むことを目指し、「新たな防災教育」を展開しています。その概要を説明します。

休憩 15分

16:15
~
17:15

自然災害を少しでも軽減するために

瀬尾和夫・宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長

自然災害は地震・津波だけではなく限りません。わが家にとって最も怖い災害は地震？ 津波？ もしかしたら豪雨災害かもしれません。一度、わが家の周辺の地形・地盤環境について考えてみましょう。



地図・アクセス

AER(アエル)アトリウム2階
宮城県仙台市青葉区中央1-3-1
JR仙台駅よりペDESTリアンデッキ直結、徒歩2分。

問い合わせ先

国立大学法人宮城教育大学
教育復興支援センター
☎ 022-214-3296

9月21日(日)

12:15
~
12:45

宮教大学生による被災地視察訪問の報告

宮城教育大学 被災地視察研修学生スタッフ

被災地にある教育大学の学生として、「私たちにできることは何か」を考え、具体的な支援をするために被災地の現状を知ることが、とても大切です。学生ボランティアの研修スタッフが説明役となり、被災地(気仙沼・南三陸方面、荒浜・関上方面、南相馬市小高地区方面)を視察した取り組みを紹介します。

休憩 15分

13:00
~
14:00

1.17→3.11 被災地の防災教育のこれから

新妻英敏・仙台市教育局学校教育部学びの連携推進室 主任指導主事

阪神・淡路大震災の発生からもうすぐ20年。神戸に住む子どもたちにとって1.17は、生まれる前のできごとであり、その教訓をどうやって伝えていくか、いままも試行錯誤が続いています。神戸の防災教育の変遷をもとに、10年後、20年後の被災地の防災教育について考えます。

休憩 15分

14:15
~
14:45

防サイエンスショー「ライフライン編」

阿部清人・fmいずみアナウンサー/防災士

ライフライン編では、「もしもの停電に備えて」「災害に備えてラジオを備えましょう」の2つの観点で、実際の防災グッズも紹介しながら、効果的な活用の仕方までわかりやすくお見せします。

休憩 15分

15:00
~
16:30

【鼎談】第3回国連防災世界会議に向けて

柳津英敬・仙台市総務局 国連防災世界会議準備担当課長
阿部清人・せんだい泉エフエム放送株式会社 取締役事業部長
野澤令照・宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長

国連防災世界会議まであと半年。会議では次世代の防災戦略が策定されるほか、さまざまな団体によるシンポジウムや展示などが行われます。この会議を通じて私たちが世界に伝えるべきこと、未来に伝えるべきことは何かを考えます。

16:30
~
16:40

クロージングセレモニー

中井滋・宮城教育大学教育復興支援センター センター長

10

11

12

13

CL